

01 国際緊急援助隊救助チームが総合訓練を実施

海外で起きた大規模な災害の現場に派遣され、被災者の救助活動を行う国際緊急援助隊(JDR)救助チームの総合訓練が、2009年11月16〜21日、兵庫県広域防災センター(兵庫県三木市)で行われました。

急な派遣に備え、最新の知識と技術の習得、チームワーク向上の場として、年に一度実施されている総合訓練。今年は特に、JDRが2010年3月に受検する、救助チームの国際的な能力評価基準「IEC」(国際捜索救助諮問グループ外部評価分類)の受検対策として行われました。

都市部の地震災害を想定した訓練では、ロープを使つての高所救助やコンクリートの掘削などを行った救助隊員たち。訓練の最後には、被災国への入国から帰国までを再現した36時間連続の「派遣シミュレーション」を実施。現地での活動拠点の立ち上げに始まり、救助犬や人命探査装置などを使つた生存者捜索、倒壊建物からの負傷者救助など、1日半に及ぶ厳しい訓練を無事終了しました。

JDRでは、IECによる能力評価の最高基準となる、「重(ヘビー)級」を受検することになっており、3月の本番に向け、なお一層のチーム強化を図っていく考えです。



コンクリートの下に閉じ込められた被災者の救出訓練の様子

02 マレーシアの障がい者の社会参加を目指して

2009年10月31日、株式会社イオン(AEON)・マレーシアとJICAが8〜9月にかけて開催した「エコバッグ・デザイン絵画展」の表彰式が、マレーシア・セランゴール州のショッピングセンターJUSCOで行われました。

この企画は、障がい者の存在と可能性をより多くの人に知ってもらおうと、同国で活動する社会福祉分野のJICAボランティアたちの呼び掛けで始まったもの。障がい者566人が「未来」をテーマに描いた作品が国内3カ所のJUSCOの店舗で展示され、買い物客ら4000人による投票で、優秀作10作品が選ばれました。

受賞作品は、イオン・マレーシアが販売するエコバッグのイラストとして使われ、収益は障がい者施設に寄付される予定です。



完成したエコバッグを披露する青年海外協力隊の川野智美さん

03 武内進一・JICA研究所上席研究員がサントリー学芸賞、大来賞を受賞

武内進一・JICA研究所上席研究員の著書『現代アフリカの紛争と国家―ポストコロニアル家産制国家とルワンダ・ジェノサイド』(明石書店)が、「第31回サントリー学芸賞(政治・経済部門)」(主催：財団法人サントリー文学財団)を受賞しました。

同書は、1994年に起きたルワンダの大規模虐殺を例に、植民地時代後のアフリカが経験してきた社会の変化や紛争の特徴原

因について分析しています。

「どのような歴史の積み重ねがあり、このような悲劇が生まれたのかを伝えたい」と武内研究員。同書は、「第13回国際開発研究・大来賞」(主催：財団法人国際開発高等教育機構)にも選ばれています。



サントリー学芸賞の贈呈式に出席した武内研究員